

No. 250

妙法寺だより

令和四年 冬号

# 大祈祷会

正月8日(日)

1回目 午前11時  
2回目 午後2時

2回に分けて行います。



令和5年の御祈祷会は、正月8日(日)午前11時と午後2時の2回に分けて開催致します。ご都合の良いお時間の方へお越しください。年末年始には神仏やご先祖様に令和5年の健康と安泰を祈りにご家族揃ってご参拝ください。

安穏なる一年となるよう  
共に祈りを捧げましょ

## ◆ 祈祷内容一覽

身体健全	家族が円満に過ごせますように
交通安全	健康で過ごせますように
當病平癒	交通の災難に遭いませんように
商売繁盛	病が治りますように
事業繁栄	商売が繁盛しますように
社運隆昌	事業が栄え成功しますように
学徳増進	会社が栄えますように
合格成就	勉強ができますように
発育増進	志望校に合格できますように
心願成就	お子様が元気に育ちますように
除厄開運	心に秘めた願いが叶いますように
	厄を除き幸運に恵まれますように
	(厄年に当たられている方の厄除け祈願)
夫婦円満	夫婦が仲良く過ごせますように
安樂産福子	元気な子供が産れますように
寿命長遠	元気に長生きできますように
※御札の申込は年内までにお願いします	

## 女性

数え19歳

前厄 平成18年生  
本厄 平成17年生  
後厄 平成16年生

数え33歳

前厄 平成4年生  
本厄 平成3年生  
後厄 平成2年生

数え37歳

前厄 昭和63年生  
本厄 昭和62年生  
後厄 昭和61年生

数え61歳

前厄 昭和39年生  
本厄 昭和38年生  
後厄 昭和37年生

厄年

男 性

数え25歳

前厄 平成12年生  
本厄 平成11年生  
後厄 平成10年生

数え42歳

前厄 昭和58年生  
本厄 昭和57年生  
後厄 昭和56年生

数え61歳

前厄 昭和39年生  
本厄 昭和38年生  
後厄 昭和37年生

※申込書には、記号でご記入ください。

具体的なご要望を「要望内容」の欄にお書きください。内容を考慮しご祈願致します。

(同申込者は2台目以降、一台につき2000円)

# 御祈禱料

特別祈禱 15,000円（大きな御札）

一般祈祷  
3000円

# なまはげ

## 襲来

各時間の御祈祷会終了後には、皆さんの厄払い、疫病退散を祈願して、秋田県男鹿半島からなまはげが登場！日本の伝統文化をお楽しみください。



平成30年の時の様子



## 古いお札 正月飾り お焚き上げ

昨年の古い御札、お正月飾りのお焚き上げの品は受付にお持ちください。燃えないものは、お焚き上げできないためご遠慮ください。

祈ることを贈る

## 妙法寺の特製御守

妙法寺の特製御守は、御祈祷会でも販売いたします。ご自身だけの祈りに止まらず、ご家族やご友人などに「祈ることろ」を形にして御守を贈つてみてはいかがでしょうか。受け取った方は、神仏の功德と人の温かみを感じ、喜びや生きる力を得ることができるのではないかでしょう。



## 初詣

妙法寺では大晦日から正月の三箇日は、本堂を開放し初詣の皆さまの参拝をお受けしています。本堂正面には南北朝時代より祀られます“勝負の神様・開運の神様”である「毘沙門天王」を特別奉安し、受付にて「御守」や「おみくじ」なども販売しております。年頭にあたり、一年の安泰をお祈りください。



# 大晦日

午後11時　→ 歳末報恩会 本堂

午後11時半 → 除夜の鐘 開始

午前0時　→ 新年祝祷会 本堂

※受付は12時30分に終了致します。  
※例年混雑致しますので、お早めにお越し下さい。

除夜の鐘



俺の一文字 私の一文字



除夜の鐘

# ◆令和五年 年回忌表

百回忌	昭和四十九年	平成二十三年	平成十九年	平成十三年	平成九年	平成三年	昭和六十二年	昭和五十六年	四十七回忌	三十七回忌	三十三回忌	二十七回忌	二十三回忌	十七回忌	十三回忌	七回忌	三回忌	一回忌	周忌	令和四年	令和三年	平成二十九年	平成二十三年	平成十九年	平成十三年	平成九年	平成三年	昭和五十二年	昭和四十九年	大正十三年
-----	--------	--------	-------	-------	------	------	--------	--------	-------	-------	-------	-------	-------	------	------	-----	-----	-----	----	------	------	--------	--------	-------	-------	------	------	--------	--------	-------

# ◆年回忌のお知らせを同封致します

来年、年回忌に該当される方に「年回忌のお知らせ」を同封いたしております。ご確認ください。希に古い字などで誤植がある場合がございます。その際には、何卒ご容赦いただき、お手数ながらお知らせいただきますようお願い申し上げます。

※ご法要は御命日より前に行うのが良いとされています。

※お申込はお早めにお願いいたします。  
※ご法要の申込は、ホームページからでも行えます。

## お知らせ

■12月30日～1月8日まで墓参用のお花を販売しております。年末のお墓参りでは、ご先祖様に無事に過ぎさせたことへの感謝の気持ちを伝え、年始には今年一年の安泰を祈りましょう。

1対 1,500円（お線香付）  
1束 750円

※数に限りがあります。在庫状況などはお問い合わせください。



■お台所にお祀り致します「普賢三宝荒神」様の御札は、12月1日より30日迄、寺務所で用意しております。

1体 1,000円

見本



コロナ禍で大事な人を亡くし  
十分に弔えなかつた方のための

## 弔い直し

### お友達・仕事仲間を弔う

葬儀に参列できなかつた大切なお友達、  
共に仕事に励んだ仕事仲間のご供養を、  
参列者お一人でも、ご友人やお仲間との  
複数人でも、本堂でご供養を當むことが  
できます。命日やお戒名(法号)がわから  
なくともご生前の名前(俗名)がわかれれば  
大丈夫です。



### 偲ぶ会

一周忌や三回忌の法要後に、ご縁ある人  
たちと共に「偲ぶ会」を當むことができま  
す。故人の好物やお酒を楽しめるよう感染  
対策を整え、思い出の写真や動画を投影  
できるよう大型テレビやスクリーンを、  
好きだつた曲と一緒に聞いたり、思い出を  
語り合えるように音響機器を整えました。  
是非ご活用ください。



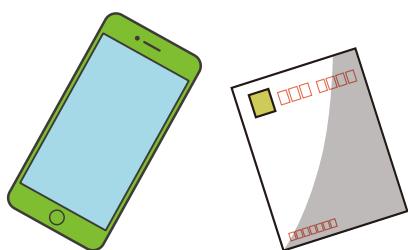
「弔い直し」や「偲ぶ会」につきましてはお気軽にお問合せください。

## 妙法寺からのお願い

### ●ご住所

### ●電話番号

### ●連絡先の追加



変更がありましたらご連絡ください。

ご登録いただいている内容に変更がありましたらご連絡を  
お願いします。今回、スマートフォンからでも簡単にご変更  
いただけるようになりました。是非、ご活用ください。

※ご相談もお受けする項目もございますので、ご活用ください。



こちらのQRからも  
ご変更できます。

# 身延山久遠寺 御更衣式 特別参拝

妙法寺を開山された日昭聖人の700遠忌記念として  
して10月31日に行いました。身延山 久遠寺 御更衣式  
特別参拝。50名の方々がご参加くださいました。  
お写真と共にご報告させていただきます。



午後4時30分からは、身延山の書院において、  
妙法寺より身延山に衣を奉納する「献納式」  
が行われました。



午後6時からは日蓮聖人の御尊像をお祀りします、祖師堂にて営まれ、  
お導師(法要を導く僧侶)には、身延山の副総務 浜島典彦上人がお勤め  
くださいました。

今回、特別な待遇をいただき参拝することができました。本来は  
身延山の修行僧がお経をあげる内陣という場所に入れていただき、  
日蓮聖人がお着替えされる様子を目の前に拝することができました。



当日は、お天気にも恵まれ富士山を  
キレイに望むことができました。昼食  
には山梨名物の「ほうとう」を頂き山梨の  
雰囲気を堪能。



祖師堂の前で記念撮影



お着替えされている最中は、堂内の照明が落とされ、ロウソクの灯り  
のみ、幻想的な雰囲気のなかで営まれました。



お導師をお勤め頂きました  
副総務 浜島典彦 上人



無事に冬衣にお着替えされた日蓮聖人

# 御会式法要

11月6日(日)日蓮聖人741遠忌日昭聖人700遠忌のお会式法要が行われました。写真と共にご報告させていただきます。



コロナ禍の2年間は役員さんのみで行われたお会式法要。3年ぶりの法要には、多くの方々がご参列くださいり、堂内はお題目の太鼓が響きわたって、感慨深い、豊かな法要となりました。



3年ぶりに開催された「感謝祭」には、上方落語の爆笑王 桂雀々 師匠がご登壇くださいり、演奏も生演奏で雰囲気はまさに寄席！

今回は師匠に、以前より披露を念願しておりました、「地獄八景亡者の戯れ」の演目をご披露頂きました。亡くなつた方が四十九日忌までの旅路を面白おかしく描かれた雀々師匠の十八番の演目で、1時間を超える落語ながらもあつという間の時間でありました。



筆頭総代の「近藤康弘」様より御挨拶を頂きました。



松下明潤上人が「日蓮聖人から受け取った恵みに目を向ける」をテーマにお会式法話をしてくださいました。



“みやづかいを法華經とをぼしめせ”以前にもご紹介させて頂いた日蓮聖人のお言葉であります。この一節はご信徒である四条金吾さんに宛てたものです。四条さんは幕府に仕えるお役人、今まで言う公務員のようなお仕事をしておりました。四条さんは、日蓮聖人にお仕えするお題目の信仰者。そして直属の上司である江間光時氏は、南無阿弥陀仏の熱心なお念佛信仰者でありました。そのことから江間氏や同僚たちから良く思われず、嫌がらせ、今までいうパワーハラを受けていました。そのパワーハラもエスカレートし、四条さんの領地は没収され、謹慎処分を受けてしまいます。更に追い打ちをかけるように、鎌倉にある自宅は火災によって焼

## 「みやづかいを法華經とをぼしめせ」



今回の「住職のコーヒータイム」は、佛教の「修行」についてお話をしたいと思います。

失してしまい、災難が続きました。そんな不運が続いた四条さんは、仕事を辞めて日蓮聖人の弟子として出家をする決意を固め、「弟子にして欲しい」というお手紙を日蓮聖人に送られます。そのお手紙を受けて、日蓮聖人は「みやづかいを法華經とおぼしめせ」と言つて諭します。「みやづかい」とは、上司に仕えること。上司にどんなに嫌われ、同輩からも嫌がらせを受け、自宅が火災に遭うという不運があつても、そこから逃げるように出家をしてはならない。どんなことがあつても上司に仕えることを法華經の修行、お題目の信仰と思って励みなさいと教え、弟子にすることを断ります。



【日蓮聖人の絵伝に描かれる四条金吾】

四条金吾さんは文永8年9月12日、日蓮聖人が龍ノ口の刑場で首を斬られそうになった時、一番に駆けつけ、「共に死ぬ！」と言って日蓮聖人を守ろうと命を張り、そしてその母も日蓮聖人に最後にぼた餅の供養を捧げたと伝えられています。

## 「修行」するということ

皆さまの中には「修行」というと、お坊さんが行うような、

山に籠もつたり、滝に打たれたり、断食したりと、苦行をイメージされるのではないでしようか。しかし、法華経の修行、お題目

の修行はそれだけではないと考えます。「修行」の「修」の字を漢和辞典で調べると、「修正」という言葉に象徴されるように、『でこぼこを取り去り、すらりとした形に整える。性質や品行のかどだつた点を取り去り、すらりとした形に整える。性質や品行のかどがあります。私たちは、日々の生活の中で、仕事や学校を通じての出来事、人との繋がりの中で起ること。嬉しいことや楽しいこと、反対に辛いこと、苦しいこと、悲しいこと、思い通りにならずイライラすることなどを通じて、自分自身の至らなさや愚かさを知り、その尖った部分、愚かなデコボコの部分を正し、生き方も心の有りようもスラリとキレイに整えていくことが本来の仏道修行の目的ではないでしょうか。

## 誰もが「師匠」

妙法寺には、京都や山梨から修行に来ている若いお坊さんがいます。立場からすると、「住職が教える立場」「若い僧侶は教わる立場」と思われるがちですが決してそうではありません。私自身も、若いお坊さんを指導するなかで、自分自身の至らなさを痛感することが多々あり、若いお坊さんから教わることも多くあります。従業員から教わることも、檀信徒の対話の中でも、全ての出会い、全ての出来事が、自分にとつての師であると感じます。お互いが、時に師匠（先生）になつたり、弟子（生徒）になつたり、日々の出来事や出会いにしつかりと向き合い、気づきを得ることで心を磨き、仏様のような生き方を目指して行く。これこそが私たちの「修行」なのではないかと思います。

## その後、四条さんはどうなつたか

さて、パワーハラで悩んでいた四条さん、ある時、上司の江間氏は悪病を患有します。さまざまな医薬や祈祷など、手を尽くしましたが治らないでおりました。それを聞いた四条さんは、謹慎中ではありましたが、医療にたけていたことから、治療をさせてもらいたいと駆けつけました。江間氏は抵抗はあつたものの四条さんの治療を受けることにしました。その結果、四条さんの熱心な治療によって快方に向かい、それと共に二人の確執は氷解しました。そして四条さんの熱心な看病の功績によつて、四条さんの領地は倍になつて戻つてきたそうです。



【鎌倉市 収玄寺】

鎌倉大仏の高徳院の近くにある、四条金吾の屋敷跡に建立された収玄寺。「四条金吾邸址」の石碑は、日露戦争で連合艦隊司令長官として指揮を執った東郷平八郎の筆によるもの。境内には、日蓮と四条金吾夫妻の像がまつられています。

# 日蓮聖人御降誕800年記念事業 日蓮聖人御真蹟修復寄付

## — 中間報告 —

皆様からの多大なるご寄付に心より感謝申し上げます。ご寄付いただきました方の御芳名はホームページに掲載させていただいております。是非ご覧くださいませ。

※掲載不可の方はお載せしておりません。



こちらのQRからも  
ご覧いただけます。



9月のお彼岸明けに、修復の進捗状況の報告を受けに半田九清堂様に行って参りました。現在は表具と本紙が分けられ、本紙の調査を行いながら、ひび割れの部分や欠けてしまっている部分の修復が進んでおります。今回も立正大学名誉教授 中尾堯先生が同行してくださいり、表具を解き修復を進めるなかで判明したことをご報告させて頂きます。



本門大法御書には、両面に書かれていた！

日蓮聖人が55歳の時に書かれた「本門大法御書」は、もともと書かれた当初には、紙の両面に書かれていたようです。しかし、後世の人が薄い紙の裏表を割いて分けたようで、本紙は写真のように紙が大変薄くなっているのがわかります。これは、表具と本紙が分けられて初めて判明することでありました。きっと身延山にお住まいの頃、紙も貴重だったのではないかと拝察できます。



表装の軸から440年前の覚書が出てきました  
桟敷女房が身延山の日蓮聖人に反物などを奉納され、その奉納のお礼のお手紙として認められた「桟敷女房御返事」。その表装を解いて見たところ、軸には440年前に表装した時に書かれた「覚書」（天正八年七月十二日）が出てきました。中尾先生曰く、軸装が発達したのは戦国時代の1500年頃から、戦火の中でも大事な宝物を持ち出せるようにしたのが軸装の始まりだそうです。この御真蹟が表装がなされたのが1580年ですから、まさに戦国時代のまっただ中であったことがわかります。日蓮宗内の軸装のなかでも初期のものであろうと、その古さを教えてくださいました。また、表装に使われている布も当時、織物技術が発達していた中国から輸入された一流の生地を使用されており生地自体も歴史的な価値が高いと教えてくださいました。修復後には、京都の研究機関で調査を受ける予定です。

現在もご寄付を募集しております。皆様からのお力添え、引き続き、よろしくお願ひ致します。



こちらのQRからも  
ご寄付いただけます。